



優美な舞と伸びやかな声で魅了

3月5日(日)、若柳ドリーム・パルで春の祭典「舞踊と民謡 流派の集い」を開催しました。4年ぶりの開催となった今年は、市内の舞踊9団体と民謡1団体が参加し、日ごろの活動成果を発表しました。舞踊の部では、扇子を使ったしなやかな踊りや力強い股旅舞踊などが披露され、民謡の部では、尺八やお囃子に合わせた歌声が会場いっぱいに響きわたり、訪れた約430人の観客から盛大な拍手が送られていました。



冬の花山を満喫

2月18日(土)と19日(日)に「第18回花山雪っこまつり」が、国立花山青少年自然の家を会場に開催されました。催しは、雪に触れるイベントを通して地域活性化を図るため、地元住民でつくる実行委員会が毎年開催。コロナ禍の影響で2度中止されましたが、今年は3年ぶりに復活しました。雪上ドッジビー大会の他、雪上綱引き大会、スノーモービルで引くバナナボートの体験乗車などが行われ、会場はたくさんの人でにぎわいました。



長寿100歳おめでとうございます

2月10日(金)に佐々木きよこさん(瀬峰下富)、12日(日)に大谷愛子さん(高清水5区)、14日(火)に高橋信子さん(瀬峰下富)、20日(月)に三浦はなよさん(志波姫橋本)、3月1日(水)に三浦勉さん(築館横須賀)、10日(金)に千葉志つるさん(一迫新町)が100歳を迎えられました。佐々木さんは、広告紙で物入れを折るのが日課で、施設にも贈って大変喜ばれているそうです。大谷さんは、若い頃に給食センターで働き、退職後は畑仕事に精を出し、おいしい野菜を作っては、家族から喜ばれていたそうです。高橋さんは、趣味の茶道と生け花を長年続け、たくさんのお茶席に参加されてきたそうです。三浦はなよさんは、身の回りのことを介助無しで行うことができ、相撲中継を見ることを楽しみに過ごされているそうです。三浦勉さんは、日々、周囲の人たちと話をすることを楽しみ、離れて暮らす孫や家族に会える日を心待ちにしているそうです。千葉さんは、お茶飲み話が好きで、家族との会話を楽しんで元気に暮らしているそうです。

〔上段左から〕佐々木さん、大谷さん
〔中段左から〕高橋さん、三浦はなよさん
〔下段左から〕三浦勉さん、千葉さん



令和5年度市防火標語決定

市民に広く火災予防を呼び掛けるため、市内の小学5年生を対象に防火標語の募集を行いました。審査の結果、応募総数429点の中から、一迫小学校の沖田菜さん(一迫高橋下)の作品「出かける前に 火のもと確認 よしよしよし!!」を最優秀賞に選びました。受賞した沖田さんは「火の元を指差しで確認し、火事を減らしてほしいという思いを込めました」と話していました。この作品を令和5年度の市防火標語として、火災予防活動に活用していきます。



国土交通大臣賞受賞

土砂災害とその防止について理解と関心を深めるため、全国の小、中学生を対象に「令和4年度土砂災害防止に関する絵画・作文」の募集が行われました。結果、全応募作品3,994点の中から、一迫小学校6年生(当時)の崎野寛太さん(一迫保呂羽)の作文「もしもの時のために」が国土交通大臣賞を受賞しました。崎野さんは「地区の防災訓練に参加した経験を基に書きました。予想外の受賞で、とてもうれしいです」と話していました。



開発研究成果を発表

2月17日(金)と18日(土)の2日間、東北職業能力開発大学校で、学生たちが開発研究の成果を発表する、一年に一度の晴れ舞台「第21回東北ポリテックビジョン」が開催されました。会場には、食品工場の作業効率を向上させるために開発した装置や、テレビゲームと健康器具を組み合わせることで開発した遊具などが並びました。また、技術と正確さを競う多彩な競技会や、親子ものづくり体験教室なども行われ、来場者はおもしろいものに触れていました。



コケの魅力に夢中

2月4日(土)から26日(日)まで、栗駒山麓ジオパークビジターセンターで「くりはらde苔アート&テラリウム展」が開催されました。期間中、苔テラリウムと苔玉作成教室が行われ、参加者は世界に一つだけの作品作りに夢中になっていました。そのうち、苔テラリウム作成教室では、太古から自生し、ジオパークとの縁が深いコケを、石や色付きの砂と組み合わせて植え込む作業に「初めてだけど楽しかった。器を変えて自宅でもやってみよう」という声も聞かれました。